

症状の軽い胆石 柴胡剤など服用

Q 四十三歳、女性。健康診断で胆石があると言われました。数年前から時々、食後や疲労時に右の脇腹（わきばら）に不快がありました。すぐに手術しなくてもよいが、帝王切開や虫垂炎の手術をしているので内視鏡でとるのは難しいと言われました。

（たんのう）炎を併発して痛み・発熱・強い炎症反応を認めるケースや結石が胆嚢に充満して大きく膨れているときは、一般的に手術する。胆砂（たんさ）と呼ばれる小さな石と胆汁の鬱滞（うったい）が見られたり、直径一〇mm程度までの胆石があるときは漢方薬を試みる価値がある。

A 胆石症の患者さんからの質問は多い。腹部の超音波エコー検査が人間ドックの中で必ず行われるので、胆石発見の頻度が非常に向上した。数ミリの胆石も確実に見つけられ、ポリープなどの識別もかなり容易になった。

症状のないものや質問者のように軽度の不快を訴える場合、ただちに手術すべきか否かを決めるのは意見の分かれるところである。胆嚢

質問者のように季肋部（きろくぶ）に不快感を訴える人には、柴胡剤（さいこざい）と呼ばれる柴胡を中心にした処方好んで用いられる。また大黄（だいおう）などの生薬が胆石の形成や増大を阻止したり、胆嚢炎の予防に効果があることもわかっている。胆石の性状や大きさ、数によって漢方薬の排石効果はまちまちで、数年間は服用しなければならぬことが多い。